

# ゆきぎのみち

日本古神  
道研究会

二六六二年 二月 二日 横浜定例講演より

## 『神様との接し方』

今日は『神様との接し方』についてお話致します。『神様との接し方』と言いますが、「神社参拝の仕方」とか、「神棚の祀り方」とか色々あるのですが、今日は『魂で聴く』と言いますか、皆さんに『大神様の一言一句は魂で聴け』というふうに言われているけれども、中々そうはならない。というところから、『魂で聴く』とはどういうことか。

また『神人合一』、神様と自分が一体になるというお話もしてあるけれども、それが具体的にどういうことなのか。

それから、皆さんが自己判断をしている。いくら言っても自己判断をする。そういったところのお話を中心に、今日はお話したいと思います。

### 魂で聴く事 と神人合一

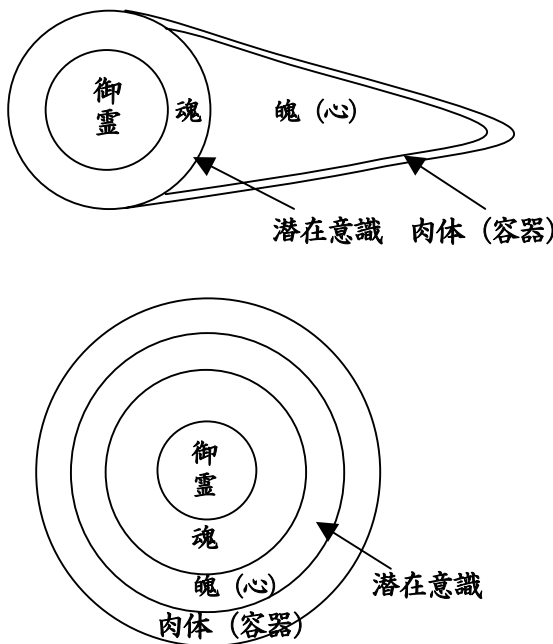
皆さんにお話をする時には、例の火の玉。これが「しい」である。「魂魄この世に留まりて」というふうなことを言われ

ます。これが「たま」で「しい」である。(左図参照) こういうふうなお話を以前にさせていただきます。

靈魂の靈、これを丁寧に言うと「御靈<sup>みたま</sup>」。しかし、こういった時には靈魂と言ったり色々に呼んでいる訳です。

大神様が、『魂で聴け』、『わが言の葉<sup>ことば</sup>は一言一句魂で聴け』と言われる、魂というところになる。魂と魄ね。実際に大神様が言いたいのはここ(御靈)なんですけれども、ここには中々到達しない。靈魂の所の靈の方、御靈の方には中々到達しないので、せめて『魂で聴きなさい』という意味です。

「魂魄の図」



そういったことをいくらお伝えしても、皆さんの日常生活に生かされなければ意味がありませんので、今日はそういった所に関連してお話をしたいと思います。この「魄」と書いてあるのは、別の呼び方をすると「心」とか「気持ち」です。この部分は以前に何度もお話をした部分です。

この「尾っぽ」の部分。最近はこの火の玉も見かけることは大変少ない。私の子供の頃は結構出た。「あそこの家で人が亡くなった」というと、何日かすると、その家のところから、屋根の上をぐるぐる回ると出て出る。実際に出る。「ほら出たー」ということだね。最近はその殆どありません。最初は、都会はネオンサインとか灯りがまぶしくて、火の玉が出ないのかなと思ったけれど、そうではない。

## 人の実態を知る

実際には皆さんが亡くなった時、身体は土に返さなくてはいけないけれども、この身体から靈魂・魂魄の部分、あの世に行かなければならないけれども、これが中々抜けられない。実は皆さんが薬を飲んで、薬がそのまま二カワのような状態で粘着材となって肉体から離れられない。

そうすると大抵の人は皆、斎場で焼かれているのですよね、可哀相に。あの世へ行った時に、靈魂とか魂魄というものが皆焼けただれて、あの世を回っているというか、迷っていることが多いのです。そういうのがこちらへ「助けてくれ」と来るし、皆さんの身体にしがみ付いてきて、具合が悪いという状態になっている

ことが多いのです。この傾向は非常に進んできています。というのは、斎場へ行って抜け切れない。皆、焼かれている。皆、火傷をしている。「助けてくれ」というのが非常に多い。しかし、今日はそちらの話ではありません。一応、でもそういう状態で火の玉が見られなくなっていますよということですよ。

この尾っぽの部分が悪い訳ではない。中心の御霊が大事なんですが、尾っぽの部分があるから、推進力になって動くのです。この図の通り書きますと、尾っぽが揺れますから、左の方向に向けて進んでいくことになります。尾っぽが下から上を向いて進めば上昇し、尾っぽが上にあると、あつと言う間に下りてしまう、ということになります。

これも球体ですから、いつも言う水晶の玉のところ尾っぽが付いていると思ったら、くるくる回って、どっち向いて行くかによって上昇したり下降したり、右に行ったり左へ行ったりすることになる訳です。

そこまでは以前にお話をしております。皆さんは一つ図を書くと、もうこれだけを覚えておられるものだから、今日はそういうものではなく、あるいは「心」とか「魄」、あるいは「魂」と言われる部分です。ですから、「一大決心をした」と言うのと、皆さんは大変な決心をしたように思うけれど、私の方では「まもなく変わるな」「気が変わる」と受け取るのです。

尾っぽの部分は本当はこういうふうにも二重になっているのです。何故かと言うと、これが肉体なんです。心は肉体の中身にあるわけですから、そういった意味でこの部分が肉体になります。中身の方は、大変変幻自在でございませう。従って、肉体がこういう私たちの心とか魂というものを包んでいるのです。私たちの肉体の中に心があり、その奥に魂があり、更にその奥に御霊がある、こういう形になるのです。

そしてこの一番外の器である、言い換えれば、器に過ぎませぬけれど、器である肉体は土に返す。これも以前にお話してありますけれども、初めて聞くお方もいらっしやるでしょうから、念のために申し上げておきます。

### 神様の懐に抱かれて

何時も出てくる「十字の教

え、「火と水」ということで、火

(カ) 水 (ミ) ということで、原理はいたって単純です。だから

この接点のお湯が神の懐という

ことになって、日本人のお風呂

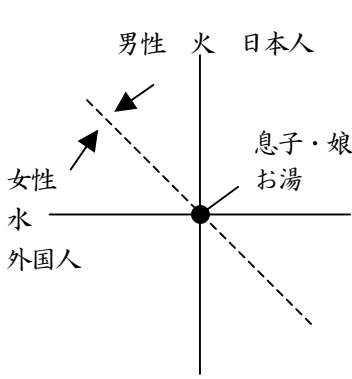
好きということになるわけです。

外国人はシャワーで流す事の方

が多いけれども、どっぷりと湯

に浸かることが大事なのです。

これも何度もお話ししていますけれども、倒産で借金取りに追われて夜中も叩き起こされてど



うしようもないという大変な人が駆けつけて来た時に、「とにかくお風呂に入りなさい」と言われたのです。そしてたら本日に翌日「ぐっすり眠れました。借金取りは来ただろうけど、全然もうそんなこともわからないで寝ました。目が覚めたらもう八時だった」と言う。

それまではシャワーを浴びていたんですね。お風呂に入ったら、神様の懐ですから、ぐっすり眠れる。やっぱり寝不足とか、おびえるようなことをしていたら、いい閃きは出ません。神の懐の中でぐっすり寝て、初めて「やろう」という気になるわけです。こういう意味で、火・水。

これ(火・水)に土を加える。その時は火(ヒ)と読む。火・水・土(ヒミツ)。秘密ですよ。何故かと言うと、私たちの身体は火と水と土で出来ています。従って、「この世を終わった時は、肉体の部分を土に返さないと、神の世界には戻れません」ということで、原理はいたって簡単です。原理は簡単なのです。火と水と土です。火と水と書いているけど、この火が縦になっているのは、皆さんが起きておられると、自分からエネルギーを発散していますから暖かい。『火の気』と言う。火の気になる。火の気を発するわけです。

### 正しく十字を組み合わせ

横になると『水の気』になるから、同じ人であっても横に

なった時は、水として冷たいもの、寒いものになるから、お布団なり毛布を着ないと風邪を引くということになる。横になると、